

令和6年度「土砂災害防止に関する絵画・作文」作文中学生の部 最優秀賞
(岡山県知事賞)

「何かあってからでは遅い」

岡山県立津山中学校 3年 な 中 田 あ つ ひ と 淳仁

私は今までに土砂災害を経験したことがない。しかし、最近は地震が多く起きていたり、大量の雨が短時間で降ったりして、例年に比べ自然災害がいつ起きてもおかしくないという状況を身近によく見かける。土砂災害というのは、台風や大雨、地震、火山の噴火など様々な災害に深く関わり、二次災害として起こることが多い。つまり、土砂災害の対策をするということは、全ての自然災害の対策をすることと同じと考えても良いのだ。では、実際に他の自然災害からどのような影響を受けて土砂災害が起こるのだろうか。これまでにあった土砂災害の事例を2つ紹介する。

1つ目は、2018年の西日本豪雨だ。この時には、台風の影響による大雨が原因で起きた。岡山県では特に倉敷市真備町が被害を受けた。この豪雨では河川の氾濫もともない、水道や電気のライフライン、道路や列車などの交通インフラが回復していない時期があり被災地での大変な生活がニュースで放送されていたのを覚えている。山から崩れてきた土砂で家や車が流されていき、自分のものが全て失われる辛さは想像を絶する。

2つ目は、1995年の阪神・淡路大震災だ。この時には、地震により山から土砂が崩れ落ち、建物を倒壊させ、ライフラインも途絶えた。私はまだ生まれていない時のことなので、その当時のニュースや新聞は見たことはない。しかし、毎年1月17日に放送されている番組を見たり、授業で取り上げられたりすることで様々なことを知った。私の阪神・淡路大震災のイメージは高い建物や大きな道路がいくつも倒壊し、人が住めるとは思えない状況だ。このように大きな地震のため、山の近くは土砂災害の被害が相次いで起きた。地震だけでも大変な事態なのに、土砂災害まで起きるということは考えただけでも恐ろしい。

このように、日本はここ数10年で様々な形の土砂災害を体験してきている。では、この土砂災害に対して、最近よく耳にする『自助・共助・公助』でどのようなことができるのだろうか。

まず、『自助』として、私は防災バッグを準備することを考えた。ショッピングモールなどに行くと災害への「備え」を誰もが簡単にできるアイテムがたくさんある。その中でも特に防災バッグが大切だと思う。土砂災害だけでなく、地震や津波が起きて避難しなければならなくなったとき、「何を持って行こうかな」と考えている暇はない。事前に準備し、1つにまとめておくことで自分や家族の命を守ることができる。

次に、『共助』として、他の人と危険な場所を共通認識することが考えられる。ハザードマップを見たり、自分が発見したことを話したりすることで、他の人と少しでも多くの情報を共有することができる。例えば、友達と「公園の近くの山が崩れそうだったよ。」と話すだけでもその友達は1つ情報を得ることができる。その情報がもしかすると、いざというときに少しでも役に立つかもしれない。小さな町でも1人では見えていない部分が大量にあるだろう。しかし、1つでも2つでもより多くの情報が自分の命を守ってくれるかもしれない。

そして、『公助』として「防災機材倉庫」を私の町で見つけた。昨年私がよく行く町民体育館のそばに小さな物置のようなものが設置されていた。それには、赤十字のマークがついていて「防災機材倉庫」と書いてあった。その中には、災害時に使用する非常食や布団など様々なものが入っているのだろう。私の町はここ近年「災害」と言えるほど大雨や地震などが起こっていない。しかし、いつ起こるか分らない。そのもしものときのために、まず行政が動いたのだ。他にも、学校や体育館、公民館の耐震工事が進められたり、山の斜面をコンクリートで固めて崩れないようにしたりという工事も進めている。行政が動くのならば、私自身も少しでも対策しようと思った。私の町では、この『自助・共助・公助』がよくされているのかなと私は思っている。しかし、実際に起こったことがないので、本当にこのままでも大丈夫なのかは誰にも分らない。

令和6年度「土砂災害防止に関する絵画・作文」作文中学生の部 最優秀賞
(岡山県知事賞)

私は何か「想像する」というのがとても苦手だ。だからこそ、今私が想像できないことが起きても安全に行動して生きていられるように「備え」をする。よく「何かあってからでは遅い。」と言われるが、まさにその通りだと思う。その「何か」にいつでもどこでも対応できるように「備え」を怠らないようにしたい。